

# たじひのだより

松原市文化財情報誌 No.16

## 布忍遺跡の発掘調査成果

—布忍寺伝承地より37年ぶりに  
平安時代の瓦が出土—

松原市教育委員会が布忍遺跡の範囲内にあたる北新町2丁目で発掘調査を行い、江戸時代の溝から多くの瓦が見つかりました。瓦のほとんどは江戸時代の物でしたが、平安時代後期の瓦が1点だけありました。どうやら、古い本瓦葺の建物を壊した際に瓦を溝に捨てて埋めたようです。

今回の調査地周辺には「坊中」と呼ばれる小字名が残り、布忍寺(永興寺)伝承地と言われています。調査を行った場所のすぐ東では、市史編さん室が昭和54(1979)年に発掘調査を実施し、平安時代後期の瓦等が見つかりました。

布忍寺(永興寺)は、元文2(1737)年の『布忍山永



興寺略縁起』によると寛治3(1089)年に永興律師を開基として七堂伽藍が建立されたようです。その後、一時衰退しますが江戸時代に本堂のみが再建されます。再建された本堂は明治6(1873)年に廃寺となるまで存続しました。

今回の発掘調査で瓦が出土したことにより縁起の伝える創建年が正しい可能性が更に高まりました。



写真1 今回出土した複弁蓮華文軒丸瓦(直径15cm)



写真2 昭和54(1979)年の発掘調査風景(東から)



写真3 調査区全景(西から)

# 池内遺跡の発掘調査成果

## —古墳時代の土坑群と平安時代の集落—

はじめに 池内遺跡は松原市の天美東3～5丁目、天美北1・6丁目に所在する遺跡です。東西約0.9km、南北約0.6kmの範囲で広がります。

これまでに都市計画道路大和川線、都市計画道路大阪河内長野線の建設に伴って発掘調査が行われ、弥生時代前期の水田跡や環濠集落、平安時代後期の建物や井戸、溝などの集落跡がみつかっています。

平成27年から28年にかけて、松原市天美東土地区画整理事業に先行して発掘調査を行いました。都市計画道路堺松原線と都市計画道路大阪河内長野線が交差する天美東4丁目交差点を北西角とする地域で、調査面積は約16,000㎡です。

調査の成果 発見された遺構は約1,500基にも及び、土器や石器なども多数みつかっています。遺跡の時期は、弥生時代後期から古墳時代中期と、平安時代中期が主です。

弥生時代から古墳時代 調査区の中央からでは、弥生時代後期から古墳時代中期の井戸や土坑、溝が多数発見されました。

円形の土坑が多く、直径が約0.5m～1.0m以上、深さが約0.2～1.0mと様々です。土坑には掘ったときに出土した土をそのまま埋め戻した土の塊が多く詰まっています。井戸は直径3.0m以上、深さが1.0m以上もあり、すべて素掘り井戸です。

土坑や井戸の底からは、完全に近い形の土器が多数みつかりました。なかには弥生時代後期の甕かめの高杯たかを蓋としてかぶせたものや、須恵器の壺すえきや高杯、土師器の壺や甕がまとまってみつかった遺構もあります。意図的に置かれたと考えられ、何らかの祭祀行為があったと推測できます。

古代 調査区の北では、9世紀後半から10世紀の集落がみつかりました。掘立柱建物のほつたてばしらたてばしらのものが10数棟発見されました。建物の規模は柱間はしらまが南北2間、東西2間のものから南北2間、東西6間のものと様々です。建物の向きは現在の東西南北軸とほぼ同じで、方位を意識して作られています。建物は2、3棟ごとに



かたまって、広い範囲に点在しています。また、建物の周辺には、集落を区画するような溝や牛車等の車輪跡である轍わだちも発見されています。調査区全体を斜めに走る大溝もみつかっています。

まとめ 今回の調査では、これまでに池内遺跡では余り知られていなかった古墳時代の遺構・遺物が見つかり、この時期の人々の生活がこの地域にあったことが分ったのが大きな調査成果です。

また、調査区の北西では9世紀から11世紀までの平安時代の集落跡が広範囲で発見されていましたが、今回の調査で集落の範囲がさらに拡大するものとなりました。

(公財)大阪府文化財センター 川瀬 貴子



写真4 古墳時代の遺構が多く見つかった調査区



写真5 古代の遺構が多く見つかった調査区

# 大和川今池遺跡の発掘調査成果

—平安時代と中世の屋敷を発見!!—

はじめに 平成27年から28年にかけて、<sup>あまみ がどう</sup>天美我堂5・6丁目で、府道堺港大堀線の拡幅工事に先だつて大阪府教育庁が発掘調査を行いました。調査地は、東西方向に走る道路に沿った長さ126mです。その結果、<sup>へいあん</sup>平安時代と<sup>ちゆうせい</sup>中世の屋敷跡が見つかりました。

平安時代の屋敷跡 調査地の東側では、平安時代の屋敷跡と耕作跡が見つかりました。写真6の上部に見える道路の東側から耕作跡、西側から屋敷が見つかったことから、この道は当時から土地の区画に関連していたことがわかります。

調査の結果、多くの<sup>ちゆうけつ</sup>柱穴や<sup>どこう</sup>土坑、井戸などが見つかりました。建物は9棟復元することができました。

写真7は、屋敷の中で最もりっぱな建物です。大きさは東西5.0m、南北5.6m以上で、左の道路の下に続きます。柱は他の建物より太く、直径25~28cmほどあります。おそらく屋敷の中でも中心的な建物だったのでしょう。

中世の屋敷跡 調査地の西側では、中世の屋敷跡が見つかりました。屋敷の周囲には大きな濠を巡らせ、戦いに備えて防御性を高めたものです。濠の大きさは幅5.5m、深さ1.0mです。濠で囲まれた敷地の中では、多くの建物の柱穴や土坑、井戸などが見つかりました。建物は倉庫2棟を復元することができました。

まとめ <sup>やまとがわいまいけいせき</sup>これまで大和川今池遺跡の南側の様子はわかっていなかったのですが、新たに平安時代と中世の屋敷跡が見つかったことが大きな成果です。また近くに平安時代後期頃のお寺があったらしく、たくさんの瓦も出土しました。今回の調査成果は、<sup>きやま</sup>狭山<sup>いけ</sup>池下流域にある松原市の土地開発の歴史を明らかにする上で、重要な成果となるものです。

大阪府教育庁文化財保護課 山田 隆一



写真6 平安時代の屋敷と畑（西から）



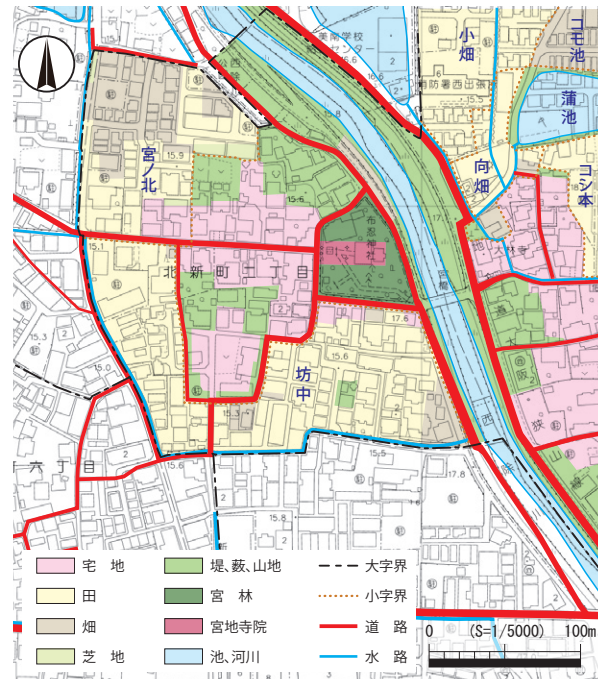
写真7 平安時代の中心的な建物（東から）

## 過去の景観を復原する

巻頭で紹介した布忍寺(永興寺)のように廃寺となり所在がわからない場合、土地につけられた小字名が手がかりとなることがあります。布忍寺の場合は「坊中」でしたが、天美我堂の「山寺」や丹南の「大和寺」からも寺院の瓦が見つかっています。

小字名を調べることで寺院跡、城館跡、埋め立てられた池や谷、古代の土地区画法である条里制の地割など様々なものの姿を復原することができます。

また、右のように明治時代の地籍図とともに現在の地図に落とし込むことで、都市化が進み大きく変化した景観の中に過去を読み取る有力な手がかりとなります。小字名については松原市史資料集第四号『松原における小字名と小字図』をご覧ください。



明治11年(1878)頃の布忍神社周辺の景観

※学術上の目的で作成されたものであり公証力を有するものではない。

## きいて・みて・ふれて



### まつばらかるた大会

松原の歴史や文化を楽しく学んでもらうため、1月29日に第2回松原かるた大会をまつばらテラス(輝)で実施しました。

小学生から元希者の方まで100名を超える参加者があり、会場にはかるたを取る音や応援の歓声がひびきにぎやかな大会となりました。



### 文化財ミニ展示

1月15日に多世代交流の拠点施設「まつばらテラス(輝)」がオープンし、1階の交流・情報展示コーナーで文化財ミニ展示を開始しました。

初回は松原市の稲作のはじまりをテーマに池内遺跡から見つかった弥生時代前期の土器などを展示しています。今後も最新の調査成果などを展示します。

### 松原市内の文化財について お知りになりたい方へ



松原市マスコット  
キャラクター  
マツキー

- ホームページ (ホーム画面右端の「分野で探す」より「文化・スポーツ」の項目にある「文化財」をクリック)  
<http://www.city.matsubara.osaka.jp>
- 文化財の展示  
ふるさとびあプラザ1F・郷土資料館 (一般財団法人松原市文化情報振興事業団)  
〒580-0016 大阪府松原市上田7丁目11番19号 電話 072-336-6800
- 埋蔵文化財に関する手続き／文化財に関する相談／図書の販売など  
松原市役所5F・教育委員会事務局 文化財課  
〒580-8501 大阪府松原市阿保1丁目1番1号  
【電話】072-334-1550(代) / 【FAX】072-332-7720(教育委員会事務局)

編集 松原市教育委員会事務局 文化財課  
発行 松原市教育委員会  
発行日 2017年3月  
印刷 石川特殊特急製本㈱